一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

春にだけ咲き、昆虫の力を借りて受粉するニホンタンポポと、一年中花を咲かせ続け、たった一株でも種子をつくるセイヨウタンポポとでは、どちらが優れているだろうか？

この比較だけを見ると、昆虫の力を借りずに自力で種子をつくれ、しかも一年中花を咲かせるセイヨウタンポポの方が優れているように見える。［A］、そうだと言い切れないところが、自然界の面白いところだ。

それでは、種子を比較してみるとどうだろう。

セイヨウタンポポは、ニホンタンポポよりも一つの花あたりの種子の数が多い。しかも種子は小さくて軽いので、より遠くまで飛ばすことができる。

数が少なく、大きくて①移動距離の短いニホンタンポポの種子と、数が多く、小さくて移動距離の長いセイヨウタンポポの種子は、どちらがより優れているだろう？

種子の特徴を見ても、セイヨウタンポポの方が優れているように見える。

しかし②実際には、そうとも言い切れない。

これはいったい、どういうことなのだろう。

じつはニホンタンポポには、セイヨウタンポポにはない優れた特徴があるのである。それは、X夏になると葉っぱが枯れてしまうという特徴である。

どうして夏に枯れてしまうことが、優れた特徴なのだろうか？

古くから日本に③自生するニホンタンポポは、日本の自然を知り尽くしている。

日本の夏は高温多湿である。何もなかった空き地も、あっという間に雑草が伸びて、うっそうとしてしまう。大きな草が生い茂る場所では、小さなタンポポは光合成をすることができない。④一年中a花をb咲かせるcセイヨウタンポポは、この夏の時季にも無理に花まで咲かせようとするから、競争に負けて生存できなくなってしまうのだ。

それに対して、ニホンタンポポは根だけを残して自ら葉を枯らす。そして、他の植物が生い茂る夏の時季をやり過ごすのだ。ヘビやカエルが土の中で冬を過ごすことを「冬眠」というように、ニホンタンポポが土の中で夏をやり過ごすこの現象は「夏眠」と呼ばれている。

そして秋が訪れ、夏に生い茂っていた草が枯れる頃になると、ニホンタンポポは再び葉を伸ばし始める。そして冬を越して翌春に花を咲かせるのである。

じつは他の植物が生い茂るような場所では、春にだけ咲くニホンタンポポの方が優れているのだ。

一方、セイヨウタンポポは、都会の道ばたのような他の植物が存在しない場所に適している。何しろ、たった一株で種子をつくることができるのだ。［B］、他の植物に邪魔をされることはないから、一年中花を咲かせて次々に種子をつくることができるのである。

もっとも都市の道ばたのような環境は、植物が育つための土が少ない。種子が生存できる場所にたどりつく可能性は高くないから、たくさんの種子を広範囲にばらまかなければならない。

それに対して、ニホンタンポポは自然が豊かな場所に生えている。はるか遠くまで種子をばらまくよりも、周辺に種子を飛ばした方が生存の可能性が高い。しかも、周囲にはライバルになる植物が芽生える可能性があるから、競争力の高い芽生えを残すためには、種子は大きい方がよい。

たくさんの種子を⑤生産しようとすれば、一個あたりの種子サイズは小さくなる。［C］、種子サイズを大きくしようとすれば、生産できる種子の数は少なくなる。

その中でニホンタンポポは大きな種子を選択し、セイヨウタンポポは小さな種子を選択しているのである。

現在、セイヨウタンポポ(注2)はその勢力を拡大し、ニホンタンポポはその分布を減らしている。そのため、Yセイヨウタンポポが蔓延(注1)することでニホンタンポポを駆逐しているようにもいわれるが、それは正しくはない。

ニホンタンポポとセイヨウタンポポは、それぞれ得意とする場所が異なる。

ニホンタンポポは日本の自然が豊かな場所を得意とし、セイヨウタンポポは日本の自然がない場所を得意とする。

セイヨウタンポポが増えて、ニホンタンポポが減っているとすれば、それは日本の自然が失われているということにほかならないのだ。

（稲垣栄洋『面白すぎて時間を忘れる　雑草のふしぎ』による）

（注1）蔓延――ここでは「いろいろなところに広がっていること」という意味。
（注2）駆逐――いらないと思うものを追いはらうこと。

問1　A ～ C にあてはまる言葉を、次のア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。（ただし、同じ言葉は二度使えない。）

ア　また　　イ　たとえば　　ウ　しかし　　エ　つまり　　オ　一方

問2　――線部①「移動」と同じ構成の熟語を、次のア～キから二つ選び、記号で答えなさい。

ア　収支　　イ　年長　　ウ　永遠　　エ　再会　　オ　給食　　カ　寒冷　　キ　牛肉

問3　――線部②「実際」の同義語（似た意味の言葉）として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　過去　　イ　将来　　ウ　事実　　エ　想像

問4　――線部③「自生する」のここでの意味として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　だれかの手を借りて育つ。
イ　人間とは関係なく自然に育つ。
ウ　せまい場所でたくさん育つ。
エ　どんな場所でも勢いよく育つ。

問5　――線部④「一年中」が修飾（しゅうしょく）している言葉として最もふさわしいものを、――――線部a～cから一つ選び、記号で答えなさい。

問6　――線部⑤「生産」の対義語（反対の意味の言葉）として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　雑然　　イ　消費　　ウ　費用　　エ　行動

問7　――線部X「夏になると葉っぱが枯れてしまうという特徴」とありますが、このニホンタンポポの特徴はどのような点で優れているのですか。次のようにまとめるとき、［　　］に入る言葉を本文中から十八字でぬき出して答えなさい。

・夏に生い茂る大きな草との［　　］ことをさけられる点。

問8　――線部Y「セイヨウタンポポが蔓延することでニホンタンポポを駆逐しているようにもいわれるが、それは正しくはない」とありますが、どうしてですか。次のように説明するとき、［　　］に入る言葉を、「得意」、「生存」という言葉を使って、三十字以内で答えなさい。

・ニホンタンポポとセイヨウタンポポは、［　　］、たとえセイヨウタンポポが増えたとしてもニホンタンポポが駆逐されているわけではないから。

問9　本文の内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ニホンタンポポは、他の植物が枯れる冬に生い茂ることができるように進化して数を増やした。
イ　セイヨウタンポポの一つの花の種子の数は少ないが、小さく軽い種子は遠くに飛ぶことができる。
ウ　セイヨウタンポポは、どのような場所でも生息できるので、どんどんとその数を増やしている。
エ　ニホンタンポポは、種子サイズを大きくすることによって生存の可能性を高くしている。

二

次の各問いに答えなさい。

問1　次の――線部の漢字の読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

①　大企業（だいきぎょう）に勤める。　　②　胃腸が悪くなる。
③　憲法を学ぶ。　　④　矢で鹿をイる。
⑤　コクソウ地帯に行く。　　⑥　シュシャ選択（せんたく）する。

問2　次の①～⑥の□にあてはまる漢字を、後の漢字群から一つずつ選んで答えなさい。

①　□に腹はかえられぬ　　②　□つづみを打つ
③　□に汗（あせ）をにぎる　　④　□を差す
⑤　立つ□あとをにごさず　　⑥　□の居所が悪い

漢字群　鳥　・　背　・　手　・　虫　・　舌　・　水